

第6回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和3年11月18日（木）

9時55分～11時15分

場所：高梁総合文化会館2階レクチャールーム

1. 開会

2. あいさつ

（三村委員長）

今回の向上委員会ですが、いよいよ「地域防災力向上の目標・行動計画」について、皆さんのご意見をお聞きしながら、策定に入っていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたい。

3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）高梁市地域防災力向上の目標・行動計画の策定について

<意見交換>

（三村委員長）

「目標・行動計画」は、市民の皆様を主役にして、大きな目標として「自らの命を守る」ということを市民自らが自覚をして、それを公助と委員の皆様を中心としてサポートしていく体制で、自助と共助が安心して実施していただけるような流れを醸成していくことを大きな方向に掲げている。修正等ありましたら、ご議論いただければと思います。また、資料④の向上委員会の活動一覧についても、補足等ありましたらお願いします。

（乗松委員）

「目標・行動計画」については、分かりやすくまとめられている。今後、具体的な取組を進めていくなかで、ブラッシュアップしたりしていくのかなと思っているので、使い方の部分を含めて、今後も考えていく必要はあると思うが、現段階の計画としては、こういった形かなと思っている。

（三村委員長）

ご指摘いただいたとおり、「取組指標」では、かなり良いレベル感のパーセンテージのものあれば、「防災関連のイベントに3年間で参加したこともある割合」などは、苦勞がいろいろと思われる。

（赤木委員）

「目標・行動計画」については、特段の意見はない。よくまとめられている。

資料④については、平常時の活動でワークショップをいくつか開催しているが、地域の防災リーダーを集めてのワークショップも開催している。高梁市内で計画があれば、声を掛け

ていただければと思う。ケーブルテレビを活用して、大雨時期の前になったら、こういったことに注意したらよいかといったことも話をさせていただいている。

災害時の活動の少し前になるが、キキクルの活用として、地域の防災リーダーの方にキキクルの危険度を見ていただいて、地域に連絡してもらい、地域の方々が避難の準備などをしてもらおうといった形で活用してもらえればと思う。

(加藤委員)

資料④の平常時の活動のなかで、書かれていない活動で、危険箇所の把握があり、ハザードマップの危険箇所を見て歩いている。災害が起きそうな時や起きた時には、危険箇所にはち早く駆けつけて、様子を見ている。災害後には、活動の反省会を絶えずやっている。その中で、団員からの意見を分団内でまとめて、それを団本部へ上げて、団本部と分団長で話をまとめて、まとまったものを団員の末端まで広げている。

「目標・行動計画」については、消防団の支援も掲載されているとおりであり、意見は特にないです。

(三村委員 (消防団))

今、女性消防団では寸劇を11月27日に発表する機会がある。レベル3の時の避難や、避難時の持出袋のこと、隣近所で連れ添って高齢者の方と一緒に避難所に行くこと、避難所には人が多くて全員には物が行き届かないといった内容の寸劇を練習している。

(三村委員長)

できれば映像を撮っていただきたい。うまく有効活用しながら、周知・徹底のアクションにしていきたい。

(横山委員 (代理：赤迫課長補佐))

平常時の活動で、防災教育ということで、防災復興推進課にはマイ・タイムラインの講習でお世話になっている。特に地域で組織化されているような学校では意識が高くなっているので、そういった取組が進んでいる状況がある。学校と地域が連携していかないといけない部分があると思うので、学校で広げていければと思う。

(三村委員 (中央公民館))

各公民館でお任せしている状況であり、公民館が避難場所になっているところは、それぞれで避難訓練等を行っている。公民館としても、ハザードマップを使っての周知等をしていく研修会を今後していけたらいいなと思っている。コロナの影響で通常の公民館活動ができていない状況であるが、コロナの様子を見ながらやっていけたらと思っているし、高梁の公民館では少しずつ防災を取り上げていこうという動きになっている。

(横林委員)

平常時の活動として、災害が起こった時に市内である程度復旧・復興ができるようにしたいといけないということで、災害ボランティアの募集・育成を行っている。あとは地域のなかに視点を当てると、災害が起こった時に見守り・声掛けができるように、普段から民生委員さんと連携をして、要配慮者について話し合いをしておくことが主な活動かなと思う。

災害時は、要配慮者への地域の役を持たれた方からの声掛けをお願いするようになる。

復旧時は、市の要請に基づき災害ボランティアセンターを設置するようになる。災害後の泥出しなどがメインになってくると思う。現在、J Cと災害の協定を結び、一緒に平常時の活動や災害ボランティアセンターの運営に携わってもらおうということで、話し合いをしており、25日に協定を締結していこうといくところまで話が進んでいる。なかなか社協だけではできないので、企業との協力を得ながら、高梁の復旧・復興に向けて一緒にやりましようということで、進んでいる。また、同じように高梁青年経済協議会とも話し合いを進めている。

(氏原副委員長)

大学として、いろいろと出来ることはあるかなと思っているが、現時点で具体的に書けることとなると、平常時の活動がメインになると思っている。今も協力させてもらっているが、各種計画を作ることに對する助言、私の方ではほぼ毎月のように行っている防災に関する勉強会の実施などで具体的に関わっていけると思っている。

(神田委員)

細かく作られていて、分かりやすいと思う。改めて多くの方が専門性をもって、ご参加いただいている。こんな体制みたことがないという感じでまとめあがっている、大変良いことだなと思う。

ただ一方で、この活動の主体は自主防災になる。自主防災の方が、何月には何をしようとか、勉強会をしたら、訓練をしようといったストーリーを作っていないといけないが、相談相手がない。自主防災の会長さんが、気安く本音で話ができ、地域の状況や意識がこんなものだから、こんなことをしないといけないといったことを言っていただいて、それに対して、この方にこれを説明してもらおう、こんな活動をしてもらおうといった、そばにいて相談できる関係の人が必要なかなと思う。トップの方は意識が高いが、その下のその下ぐらいがいろいろな方向を向いているので、それを束ねていくというのは相当な力があるし、進め方をどうしたらいいか分からないといったことを、自主防災の長の方の悩みの一つになっている。身近な相談できるアドバイザーを見つけておけばいいのかなと思う。また、そういった仕組みも必要かなと思う。

(三村委員長)

今は自主防災と各委員の方をつなぐことは、市の方でやっているのだから、引き続きやっているとこの形でもいいが、なるべく自走していけるような形ができればと思う。そんな中で防災士の方のポジションが非常に重要になってくる。

(中村委員)

私たちの町内会は184戸、500人近くおり、市内でも大きい町内会であります。避難訓練では、各班長を通じて連絡をしております。高齢者がかなり多く、高齢者を最初に安全に避難させるように訓練をしているが、なかなかままならない。地区内には池が3つあり、全域が土砂災害警戒区域に指定されている。どこに避難するか、高齢者をどこに連れていく

か、指定避難所の小学校や市民センターも土砂災害警戒区域に入っている。そのあたりのことも行政には考えていただければ、多少は気が休まる。消防団と連携して消火栓を使用した訓練も実施している。炊き出し訓練は、コロナの関係でできないので、アルファ米を各戸へ配布している。避難路の確認では、ドローンを使って危険箇所などを確認し、各戸へ地図を配布している。

(渡邊委員)

民生委員と福祉委員の連携が非常に重要になる。私の受け持ちのエリアの中、100戸ほどあり、その中の一部住宅地は除いたが、82戸に対してタイムラインのアンケートを取った。回収率が79%。要支援者の問題で、支援をしたいという方が63%、どうしても自分の都合で支援できないという方が9.2%という数字がでており、ある程度共助の形のベースはあるのかなと思っている。とりあえず皆さんが防災に対する意識を高めてもらわないといけないなということでやったという経緯である。

(三村委員長)

こういった調査を市全域で実施できるようなところまで持っていけると、先ほどの「防災関連のイベントに3年間で参加したこともある割合」も向上していくという、相乗効果になると思う。

(氏原副委員長)

全体のところで、各委員さんが言われたように、目標・行動計画が非常に分かりやすく、体系的によくまとまっている。素晴らしいものになっている。

一点だけ、時間軸みたいな話が全くないので、ロードマップとまでは言わなくても、これから市民の方に広報していくにあたって、この目標をいつまでにどうやって達成するのかという、全体の時間の流れみたいなものは必要かなと思っている。資料⑤のなかの最初の方に、全体の時間の流れとか、時間軸みたいな話をに入れてもらえると、これぐらいまでに、こういったことを、このチームでやっていくんだなというビジョンが見えて来るので、そこについて加筆していただきたいと思う。

(三村委員長)

ここの取り扱いについては、委員皆さまのご意見をお伺いしながらになります。私たち二人に御一任いただくという流れでよろしゅうございますか。

(各委員)

異議なし

(三村委員長)

一点私の方から、仁賀地区で出た意見ですが、いろいろな団体からいろいろな形で情報が行き、受け取る側がパンクした。会長さんに電話が繋がらなくなった。初動の情報をどういうルートで、どう流していくのかというような情報伝達の連絡網も全体でできれば、その中で各団体の方々がそれぞれのステージでやっていただけ、会長さんも安心いただける。市の方では、できていると思うが、地域の方は理解されていないので、理解できるようなもの

があれば安心なのかなと思う。

その他にご意見等ございませんか。

(各委員)

なし

(三村委員長)

付帯の事案については、今後検討させていただくということで、今回の高梁市地域防災力向上委員会で議論いたしました「高梁市地域防災力向上の目標・行動計画」(案)について、ご承認いただくということでよろしいですか。

(各委員)

異議なし(承認)

(2) 高梁市地域防災力向上の目標・行動計画の広報について

<意見交換>

(乗松委員)

説明いただいた内容で市民に対してはいいのかなと思う。マスコミの視点がこの中に必要なのかなと思う。前回の委員会で、「防災都市高梁」というぐらい打ち出していくべきだとの話も出ていて、全国発信というか、全国のなかでもこれだけ体系的にやっているまちはそんなにないので、発信をしていって、市長からも「これだけやっている」と東京などでも言っていて、取り上げていただくということが、市民にとっても全国のなかでもこれだけやっていることがすごいことなんだぞ、防災に対して意識を持っているんだぞという自信にもつながると思うので、そういう視点を持ってやっていくと良いのかなと思う。

(氏原副委員長)

私も乗松委員と全く同じことを言おうと思っていました。やっぱり力強いワードがあって、それで引っ張っていくということが重要なと思う。キーワードとしてかなりインパクトのあるものを意図的に作って、それを広げていけばいいのかなと思っている。私としては「防災都市高梁」がいいと思っているが、ちょっと考えていただいて、そういったやり方もぜひお願いしたい。

(神田委員)

全国発信というのは、とても大事なキーワードかなと思う。さらに若い層に防災の活動、防災の考えを伝えるという意味でいうと、若い人が観るメディアに対してアプローチできるような選択もしておいた方が良い。そうすると高齢者の方には難しいという話になってくるかもしれませんが、災害は情報戦なので、高齢者の方もちょっとずつスマホぐらいは使えるようになってほしい。だから、スマホの勉強会をするということも防災なんですよというように考えて、きっかけにしてもらえたらと思う。とにかくいろんな方が参加できるような、情報をくまなくばらまくということが大切かなと思う。

(三村委員長)

総務省の調査では、70歳以上でもインタビュー・スマホの普及率が相当上がってきている。スマホが公共財という時代になっている。情報の活用で、寸劇を配信していくなど、若い層にも普及していくような広報シナリオを検討していければと思う。市内の大学や高校とも連携して行って、若い人たちが活躍していける社会が大事になってくるので、広報のところをもう一段創意工夫を重ねていくという流れで行ければと思っている。

(3) 前回(8月23日)以降の取組状況の報告

<意見交換>

(中村委員)

防災会全体の保険はできないだろうか。訓練をしていてケガをしたとかいったときのために、そういったフォローが必要だと思う。考えていただければと思う。

(三村委員長)

ご提案いただいた件については、市の方で考えていただければと思う。

(4) 今後のスケジュールについて

<意見交換>

(三村委員長)

再任のご要請も、皆さま方ぜひご理解を賜りまして、皆さまのご協力のほどよろしく願いしたいと思います。

(委員)

異議なし

4. 閉会

(氏原副委員長)

今回、かなり具体的な資料を出していただきまして、作成するのに大変だったのかなと思う。それも皆さんが資料④で回答を入れていただきまして、かなり具体的なところに落とし込めたことがきっかけだったのかなと思います。市民の方々も、こういったものがあつたら、非常に参考になるということですので、まだまだブラッシュアップしていてもいいかなと思っていますので、向上委員会として何ができるかということをも市民の方々と共有しながら、進めていけたらなと思っている。

あと地区防災計画の方がまだ終わっていないということですので、一番難しいところでもあるので、協力させていただきながら進めていければなと思っている。自主防災組織の設立等、進んでいるところもあるということですので、着実にこれまで続けてきたことが、ちょっとずつ波及しているのかなという感覚がしておりますので、引き続き再任の2年間、皆さまのお力をお借りしながら進めていければなと思っております。